

「ここが変わった」日中異文化への関心－履修学生へのアンケートから

保坂律子*

Study on Change of Interest among Different Cultures

Ritsuko HOSAKA*

0. はじめに

筆者は本学で平成16年度から異文化理解を目的とした授業を担当している。これまでの授業について、保坂2017では「異文化との出会い」・「中国文化紀行」¹⁾を履修した留学生と日本人学生の授業コメントシート²⁾を相互に情報交換、情報発信のもととした試みを報告している。ここでは自前教科書によって進めた13章のうち学生のコメントシートに書かれた記述の多かった7章について取り上げて考察を加えた。

本授業のコメントシートは自由記述である。そのため、初めて知った日中の文化の違いをびっしり書き綴る学生もいれば、授業では触れない細かな部分の質問を書く学生もいた。自分の知っているマニアックな事象を説明する学生もいた。その一方でたった一行「面白かった」とか「初めて知った」だけ、という学生も少なくなかった。履修者には単位取得が目的であるためコメントシートの記入を煩わしいと感じる学生もいただろう。そのため、保坂2017の報告は履修者全員の意見を反映した客観的なものとは言いきれない部分があり学生が授業で初めて得た知識、あるいは既知の情報で興味深いことであったのか等は弁別できない。また「初めて知った」では、それが有益であったか、何を得たのか十分な把握はできなかったが、授業では

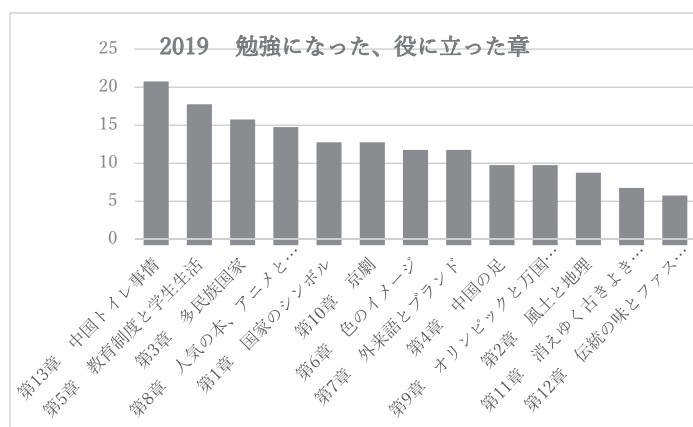
睡眠学習になりがちな学生から教室外で「先生、あのニーハオトイレの話驚いた!」、「あのブランドは知っているよ!」というように、声をかけられることもあった。留学生のコメントシートには自身も知らなかった中国のことに気づいた驚きや、自身のエピソードなども綴られていた。日本人学生と留学生がコメントシートを介して互いに知ることも多く、留学生が「来れたら来て」、「行けたら行く」という日本語が理解できずに困ったこと、留学生の「絶対に行ってはいけない中国のトイレ」の話は大いに盛り上がり、コメントシートは「異文化との出会い」という点で大きな役割を果たしてきた。

本稿はこれまでの授業内のコメントシートから報告だけでなく全履修学生を対象にアンケート調査を加えることで、授業を通じ初めて知った異文化とは何か、また有益であったものは何かを明らかにし、学生の興味や関心がどのように変化してきたか、またその背景を探るものである。

1. 異文化理解に関する調査

本年度³⁾は、「履修者全員の」授業に対する評価を客観的に把握する目的で、前期試験の際に試験裏面に質問形式のアンケートを附した⁴⁾。内容は①教科書13章で各章「初めて知ったこと」

*人間総合学群 心理学類



【2019 勉強になった、役に立った章】

を具体的に記述してもらう。また②特に勉強になった、役に立ったと思う章にチェック⁵⁾を入れてもらった。このチェック数により授業時のコメントシートの記述だけでなく、履修者全員に勉強になった、役に立ったと思う章、すなわち客観的に「有益だった章」、学生が役立ったと思うテーマの数値化を試みた。その結果は次の通りである。

以下は上記グラフを「勉強になった、役に立った」チェック数の多い順に並べ、従来の授業のコメントシートの記述量の多かった⁶⁾章を網

掛けで示したものである。保坂2017ではこの網掛けの7章を取り上げて考察している。表中の◎印はコメントも多く、かつ「勉強になった、役に立った」チェック数も多い章、○印はコメントは少ないが、「勉強になった、役に立った」チェック数が多い章、▽印はコメントは多いが、「勉強になった、役に立った」チェック数は少ない章である。

この結果からは、従来の学生のコメントシートの記述が多い章、イコール「勉強になった、役に立った」ではないことが明らかになった。

チェック数順位	テーマ	人数	※
1	第13章 中国トイレ事情	20	◎
2	第5章 教育制度と学生生活	17	◎
3	第3章 多民族国家	15	○
4	第8章 人気の本、アニメと遊び	14	◎
5	第1章 国家のシンボル	12	○
5	第10章 京劇	12	○
7	第6章 色のイメージ	11	
7	第7章 外来語とブランド	11	▽
9	第4章 中国の足	9	
9	第9章 オリンピックと万国博覧会	9	▽
11	第2章 風土と地理	8	
12	第11章 消えゆく古きよき街並み	6	▽
13	第12章 伝統の味とファストフード	5	▽

※ ◎「有益」チェック多・コメント多
○「有益」チェック多・コメント少
▽「有益」チェック少・コメント多

今年度の授業でもコメントの記述量の傾向は2年前とほぼ同じであったが、コメント記述が少なくても「勉強になった、役に立った」チェック数の上位に位置する章（○印）があり、コメント記述が多くても「勉強になった、役に立った」チェック数が少ない章（▽印）があることが明らかになった。この点でアンケート調査は有効であったといえる。

2. アンケートから読み解く「有益な」⁷⁾ テーマ

ここでは、上記アンケートの結果、学生が「勉強になった、役に立った」とチェックした章と、コメント記述量の2つの観点から13章を3グループに分けて考察を進めたい。

2.1 チェック数一多（有益度一高順位）、コメント一少なめ：○印

「第1章 国家のシンボル」（5位）、「第3章 多民族国家」（3位）、「第10章 京劇」（5位）

「特に勉強になった」、「役に立ったと思う」チェック数が上位5位までに入り、学生が「有益だった」と思った章ではあるが、授業でのコメント記述は少なめの章である。これら3章の共通点を考えると、留学生や外国人が身近に増え、身の回りの異文化環境が変化しても依然として日常接することがない、あるいは授業で扱わなければ気にかかることのないテーマ、と言えるのではないだろうか。以下では、各章のアンケート項目①「それぞれの章で初めて知ったことを具体的に書いてください」に書かれた内容を見てみたい。

2.1.1 第1章 国家のシンボル

コメントはあまり多くないにもかかわらず「特に勉強になった」、「役に立ったと思う」では第10章 京劇とともに5位に並んだ。この章で学生が初めて知ったとして挙げた内容は3つに大別される。①国歌、②国旗・国章、③竜、である。

まず、①国歌については、さらに歌詞とメロディーについて分けられる。

- ・中国の国歌を初めて聞き、歌詞を知った。歌詞の意味が激しいこと。
- ・アメリカ国歌、フランス国歌、中国国歌には国ができる時の戦いが歌われている。
- ・だいたい国歌はどここの国の国歌もオリンピックやスポーツの試合の時にしか聞かないから、曲で好き嫌いが決まっていたが、歌詞やできた経緯は知らなかった。ちゃんと意味がある。
- ・それぞれの国歌を自国の言語で歌っているバージョンを聞き、歌詞があることを確認。
- ・イギリスは「神よ女王を守り給え」という国歌で日本の「君が代」に似ている？
- ・中国国歌はアップテンポで勇ましい。

などである。

日本人学生にとって国歌といえばオリンピックやスポーツの試合で聞くもので、日本国国歌の「君が代」を除くと、他国の国歌はメロディーだけは知っていても歌詞については知識がない。授業では学生になじみ深い国の国歌のさわりを自国言語で歌われた音源で聞かせ、歌詞をPPTで示して解説すると、中国、アメリカ、フランス国歌などの思いもよらぬ歌詞の内容の激しさの一方、日本の「君が代は…」、イギリス国歌の「神よ女王を守り給え…」との違いに驚いたようだ。また、スペイン国歌には歌詞がないこと、韓国国歌のように自然について歌った国歌があることを紹介したことが驚きと共に「初めて知った」に結びついたのだろう。

②の国旗については、国旗に名称があること、モチーフや色にそれぞれ込められた意味があることが「初めて知ったこと」に挙げられた。日本の国旗を「日の丸」だと思いこんでいた学生は「日章旗」を初めて知ったと記していた。

- ・中国国旗の正式名称が「五星紅旗」という

こと。日本は「日章旗」ということ。

- ・中国国旗の5つの星にそれぞれ意味があること。
- ・中国国旗と国章の意味や竜に対する中国の考え方などの歴史について興味を持った。
- ・どこの国の国旗にもそれぞれ色に意味があること。
- ・国旗の絵（図柄・デザイン）にはひとつひとつ意味が込められていること。
- ・中国国旗は5つの星の向きと大きさまで決まっていて「中国共産党指導下で人民の団結を象徴する」ること。

同じ赤でも日の丸「日章旗」と中国国旗は違う赤であることも理解したようである。

- ・中国国旗の赤は革命の象徴であること。日本の赤とは違う赤。
- ・ソ連の赤は中国の赤と同じ。

また、授業ではフランス国旗のトリコロール、革命を起こしたフランス国旗を模した三色の意匠の国旗を多数紹介したが、それらについて「初めて知った」と言及はなかった。その一方、国旗の真ん中に○が一つ、日章旗によく似た意匠のバングラデシュ、パラオの国旗については、記憶に残ったのか「初めて知った」として記されている。またパラオ国旗の○が、月を表すことに関連して触れた、イスラム教を信奉する国の月は三日月であることをその理由とともに解説したところ、それを「初めて知った」と挙げた学生もいる。

- ・日本の国旗と同じデザインの国旗が2国あること。
- ・パラオの国旗の○は月で、青い海に浮かぶ月。
- ・イスラム教を信じる国の国旗の月は三日月なこと。

また国章については日本には正式な国章がないことから「国章」という語、「国章」の存

在自体を初めて知ったという学生が多かった。

コメントシートにはネットで色々な国の国章を見て（つまり授業中にスマホでチェックしたということか）、どこそこの国の国章がカッコいい、という記述が多数あったが、アンケートではその類はなかった。

- ・日本には国章がない。外国にはだいたいある。
- ・国章は校章の国家版？国家を象徴する紋章。デザインは国旗より複雑。
- ・中国の国章は天安門と麦と歯車と五星で赤と黄色。
- ・中国の国章は天安門や人民大会堂などの建物だけでなく、警察官や兵士の帽子やお札やパスポートにもついている。

③の竜についてはアニメやゲームの世界、神獣としての竜がなんとなく中国のイメージだったようだが、中国では5爪の竜が皇帝の象徴であり、そのため皇帝の身の回りにはありとあらゆる場所に竜のモチーフが用いられていることを初めて知り、勉強になったとして挙げる学生が多かった。特に、5爪は中国皇帝のみという点は、「今後竜のモチーフを見たら必ず爪を数えます」という記述もみられた。

- ・竜は中国のシンボルであり、建築や工芸、食器や衣服など多くの場面でモチーフとして使われていること。
- ・中国の竜が色々な形を持ち、それぞれ名前がしっかりあったんだと学んだ。
- ・中国では“九”は伝統的に最大、永遠を意味するため九竜壁は最高権力のシンボル。
- ・竜がこんなに種類があるとは驚きだった。
- ・竜は中国のシンボルで伝説上の生き物、五爪の竜は皇帝の象徴とされていること

筆者の幼少期、祝日は「旗日」といって、家の門に小さな旗を掲げていたようなおぼろな記憶がある。今は「旗日」という言葉を知らない

学生がほとんどで、祝日にバスのフロントに日章旗が2本つけられていても「何あれ?」と思うか、または気づかないようである。元号が令和に改まり、祝賀行事等で日本国旗を目にする機会も多くなるだろう。これまで思いを巡らすことのなかった国家のシンボルについて考えることから始めて、日本や中国をだけでなく他の国々についても、国旗や国歌成立の背景、国章に込められた歴史や意味などへと関心を広げていってくれればと思う。

2.1.2 第3章 多民族国家

コメントの記述はさほど多くなかったが、アンケートでは第3位につけた「多民族国家」。この章は第2章「風土と地理」で中国の国土について扱った後に続いて学ぶ。「風土と地理」では中国の行政区分も触れ、中国には省に相当する5つの民族自治区（内モンゴル自治区、広西チワン族自治区、新疆ウイグル自治区、寧夏回族自治区、チベット自治区）があることを紹介し、多くは国境近くに位置していることを紹介している。この第3章「多民族国家」の授業で日本人学生に「あなたは何民族?」と問いかけると、みなキョトンとしてしまう。「私たちが民族を意識することがないのは、日本人がほぼ大和民族からなる単一民族国家であるからで、実は大和民族のほかにごく少数だがアイヌ民族、琉球民族などもいる」と説明すると、学生は一樣に驚いた顔をする。続けて中国の人口約13億6千万のうち漢民族が約12億人、その他55民族で合せて1億人以上いることを説明しながら、写真資料や映像で各民族の住まいや民族衣装、伝統的な風俗や食べ物などを紹介すると、身近な中国人のイメージと異なる顔かたちの人々が同じ中国人だということにまた驚く。シルクロードのルート上にあるウイグル自治区の市場の写真には、かつてそこがヨーロッパと交わり

があったと私たちに気づかせる青い目や茶色い髪、彫りの深い顔立ちの人々が写っている。その写真をみて「中国じゃないよ!」と言った学生もいた。しかしアンケートで「初めて知った」ことの多くは中国各民族の人口に関することが多い。授業ではイメージしやすいように、東京都の人口、人口100万以下の日本の県について紹介しながら話を進めた、少数=貴重、少数=ほんの少し、と思いついでいた学生も多い。また、漢民族以外に55の民族が存在することもはるかに予想を超えていたようだ。

- ・多民族国家である中国、漢民族の人口は約12億と言われているが少数民族といわれているチワン族でも約1,600万人以上いること。
- ・少数民族だから本当に少ない数しかない貴重な民族と思いきや、チワン族は東京の人口より多いことに驚くと同時に、いかに漢民族が多いのかということも知った。
- ・チワン族は東京都の人口よりも多い民族だが少数民族になっていること。
- ・少数民族を合わせると約1億人もいること。
- ・少数民族が55民族いること。
- ・漢民族以外に55の少数民族がいるという、その民族の多さを初めて知って驚いた。
- ・人口100万人以上の民族が18もあり、それでも少数民族と呼ばれていること。
- ・少数といっても実は人口は多いこと。漢民族と比べて少数だということ。

また民族名の面白さ(?)やそれぞれの民族の言語が存在することも初めて知ったことにあげている。さらにチワン族以外の少数民族が、中国の「一人っ子政策」の対象外であったことも含めて少数民族が優遇されている点とその理由などについても「初めて知った」としている。

- ・チンポー族とか、パー族とか少数民族の名称が色々あって面白いこと。

- ・一人っ子政策の対象外の民族がいたこと。
- ・一人っ子政策は全員に課せられたものではなかったこと。
- ・少数民族に対する優遇政策。
- ・漢民族以外からも幹部を必ず出すこと。だから幹部にはなりやすい？
- ・チワン族以外の少数民族は一人っ子政策の対象外だったこと。
- ・一つの国の中でこんなにも細かく民族が存在していて、それぞれに服装や言語の違いがあること。
- ・日本の都道府県と同等の中国の省だが、その省と同等の少数民族の自治区があること。自治区といっても省と同等だから当然すごく広いこと。
- ・少数民族政策の中身の充実さ。

授業では、日本のパスポートと中国のパスポートの違い点として、中国には「民族」欄があること、また16歳以上の中国人すべてが所持する身分証にも「民族」欄があることを紹介し、日本人には馴染みがないが、世界の中では同じ国民でありながら民族が異なる国がいくつも存在し、信仰する宗教の違いから紛争が起こることもあると解説し、広い国土で多民族を有する中国について学んだことをきっかけに、民族という観点から他の国々の文化について考えるような授業展開をしている。

2.1.3 第10章 京劇

授業時のコメントシートから、日本人学生の多くは「京劇」の存在自体を知らないことが分かっていった。したがって、アンケートではその京劇について初めて知り「勉強になった」「役に立った」にチェックを入れた学生が多かった結果、第5位にランクインしたと思われる。授業では中国国内でも若者の京劇離れが進んでいること、日本の歌舞伎や西洋のオペラなどとの

共通点を挙げて解説し、京劇の歴史や成り立ちについて日本の歌舞伎の歴史等と比較しながら、役者の役割や技能、隈取についても詳しく紹介している。また、京劇俳優を養成する学校とそこでの授業、訓練、鍛錬の様子、実際の京劇の映像も併せて使用し、視覚からも理解の助けとなるようにしている。この章で学生が「初めて知った」として挙げた内容は3つに大別され、①歌舞伎や能、オペラとの比較、②京劇の存在、③隈取りについてである。

①日本の歌舞伎や能、オペラとの比較

- ・京劇の映像を初めて見て、日本の歌舞伎と少し似ていると思った。
- ・日本の能と比べると衣装が華やか。
- ・日本の伝統芸能の能と少し似ていると思った。
- ・歌、舞踏、音楽、美術、文学が一体となった総合芸術であること。
- ・ヨーロッパでは英語で北京オペラと呼ばれ、オペラと同様の総合芸術であること。
- ・役者が演じる4役柄にはそれぞれ意味があること。

②京劇の存在

- ・京劇という劇があることを初めて知った。
- ・長い歴史を持っていそうな劇かと思ったが、京劇はまだ200年余りだということ。
- ・北京で形づくられたから京劇ということ、その歴史がわずか200年ほどだということ。
- ・京劇のルーツはさまざまな地方劇ということ。
- ・京劇は300もある地方劇の一つ、その頂点に立っていること。
- ・京劇の役者になるための学校があり、小さいころから厳しい練習を積んでいること。
- ・京劇のことは知っていたが、激しく動き回るとは知らずびっくりした。

③隈取りと役柄について

- ・役柄によってメイクや隈取が大きく異なることが面白い。そうすれば分かるからか？
- ・演じる役柄によってメイクが変わる。同じ色でも塗る面積で表すものが異なること。
- ・隈取りの塗り方で悪役の凶悪度が決まること。顔中真っ白だとより凶悪！
- ・キャラクターの見分け方に隈取が有効なこと、隈取の色の意味。
- ・4つの役柄があり、髭を必ずつける役など決まり事やルールがあること。
- ・身に着けているもので一軍隊を表すことができるなど、見立てがされていること。
- ・男性も女性役を演じることがあること、声が高くてびっくりした。

以上3章は、授業でコメントは決して多くはないが「特に役に立った」「勉強になった」にチェックが入った章である。その理由は、これらの章で扱った内容の大部分は学生が今まで知らなかったことのため「今まで知らなかったこと」を知った、そして「新しい知識や情報を獲得して、役に立った、勉強になった」ためと解釈できる。

2.2. チェック数一多（有益度一高順位）、コメント一多： ◎印

「第13章 中国トイレ事情」（1位）、「第5章 教育制度と学生生活」（2位）、「第8章 人気のアニメと懐かしい子供の遊び」（4位）

授業でのコメントシートの記述も多く、かつアンケート調査でも「勉強になった、役に立った」にチェックを入れた数が多かったのがこの3章である。コメント数とチェック数、すなわち有益度（役に立った、勉強になった）が見事に一致している章といってよい。アンケート第1位の「第13章中国トイレ事情」は毎年コメントシートにびっしり書き込みのあるテーマであり、初回授業でも「中国のトイレに関心があり

ます！」、「ニーハオトイレについて知りたいです」などの授業に期待するコメントが多数寄せられ、興味や関心の高さが見て取れる。実際の写真資料、映像資料などを使っの授業では、中国の公衆トイレの特異性に驚きのコメントが書き込まれ、一朝事ある際に使用可能な大人数用のトイレの工夫などに感心した、という意見も大変多かった。アンケート第2位の「第5章 教育制度と学生生活」、第4位の「第8章 人気のアニメと懐かしい子供の遊び」も毎年コメントシートの書き込みが多い章である。第2位の教育制度では、保育園の全托制度（平日ずっと預ける保育制度）や、寮制度のある小学校、中学校、日本と比べてけた違いに厳しい大学入試制度やなどこれら3章の共通点を考えると、トイレ、教育制度、アニメなどいずれも自分たちの身近にあるテーマであり、中国の同世代の学生生活、アニメや娯楽など現代中国の同世代のライフスタイルにも関心が高いからであろう。アンケート調査をまたずに、学生にとって有益な章であったことは、授業のコメントシートに感想とともにびっしり書き込まれた「初めて知ったこと、役に立ったこと、勉強になったこと」から見て取れた。また特徴として日中彼我対照しての感想やコメントが多く、留学生からも実体験に基づいたリアルなコメントが寄せられる章である。これら3章に関しては保坂2017で留学生と日本人学生のコメントからの考察を詳しく報告した。

2.3 チェック数一少（有益度一低）、コメント一多： ▽印

保坂2017はコメントシートの記述量の多かった章を取り上げて考察を加えた。2017では取り上げた章であっても、今回のアンケート調査では「勉強になった、役に立った」チェックが少なかった章がある。すなわち感想やコメントは

多いが、他の章に比べて学生は特に「勉強になった、役に立った」とは思っていない章である。アンケート第7位「第7章 外来語とブランド」、第9位「第9章 オリンピックと万国博覧会」、第12位「第11章 消えゆく古きよき街並み」、第13位「第13章 伝統の味とファストフード」が相当する。もしアンケート調査を実施していなければ、コメント量から筆者はこれらの章を「学生が有益だと思っている」と思い込み続け、来年度以降も関連資料としてより多くの写真を更新、追加してしまうところだった。特にチェック数が5名と最も少なかったのが「第13章 伝統の味とファストフード」であったことは驚きであった。定期試験と同時の実施であったので適当にチェックした可能性は無きにしもあらずだが、予想外の結果であった。

しかし得られたデータをもとに考察すると、これら4章で取り上げた内容はいずれも日本人学生にとって、すでに知っている知識、手の届く場所の情報へと変わりつつあるものではないだろうか、と思えてくる。4.1の○印グループは、日常では接することないテーマを扱ったものであった。その一方、この4.3の▽印グループは講義開始後16年の間に、徐々に学生たちが知るところへ変わってきたテーマというべきだろうか。

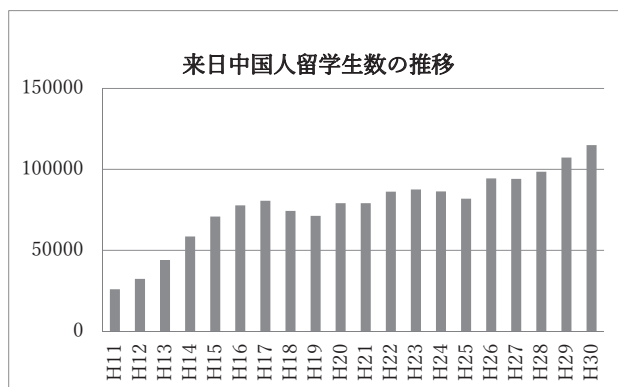
3. 異文化環境の変化

前章でアンケート調査の結果から述べたように、学生の異文化への関心や知識は開講時と現在は変わってきているように思われる。ここではその理由について、来日留学生数および留学生の出身国の変化のデータとともに考察してみたい。

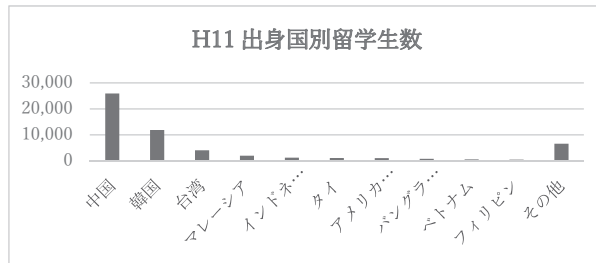
3.1 データから見る変化

21世紀に入り経済力をつけ、日本だけでなく世界の中でもその存在が増している中国。2010年に中国は日本をGDPで抜いて世界第2位になったことは記憶に新しい。日中を取り巻く社会状況は、本講義開始時と比べて大きく変わった。そしてなお現在も変わりつつある。来日留学生は飛躍的に増加し、中国人留学生数をとってみても平成11年の約2万6千人から平成30年の約11万5千人へと20年間に約4.5倍に増えている。それだけ私たちの周りに中国人留学生が増え、私たちの周りに中国人がいる環境が当たり前になっていることを誰もが実感しているはずだ。

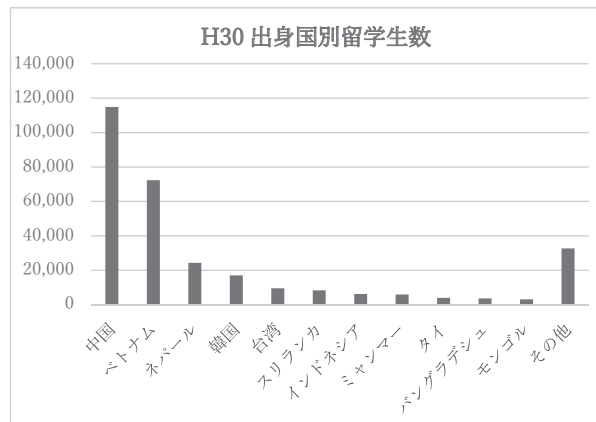
また、中国以外からの来日留学生数も急増し、出身国もこの20年で大きく様変わりしている。出身国別留学生数をみると依然として中国がトップであるが、2位以下の順位は変わっており、出身国にも変化がみられる。



【来日中国人留学生数の推移】⁸⁾



【平成11年度 出身国別来日留学生数】⁹⁾



【平成30年度 出身国別来日留学生数】¹⁰⁾

20年前は、中国に続く第2位は韓国、第3位は台湾からの留学生であったが、平成30年度は、中国に続いて第2位はベトナム、第3位はネパールとなっている。特にベトナムからの留学生が急増していることが目をひく。

留学生総数は平成30年度に約30万人となり、平成11年度の約5万6千人から20年間で約5.5倍にも増えている。来日留学生、訪日外国人や観光客の急増によって日本の中の「異文化環境」も直近の20年間で大きく様変わりしている。20年前と比べて私たちの周りの留学生数は少なくとも5、6倍に増えている。

3.2 学内における異文化環境の変化

本学内の「異文化環境」にもまた変化が見て取れる。約20年前は本学留学生の出身国は中国、韓国、台湾であったが、現在は中国、ベトナム、マレーシア、スリランカ、モンゴルとなってい

る。開講当初「異文化との出会い」は履修者として日本人学生を想定していたが、ここ数年来「異文化との出会い」、「中国文化紀行」の履修者には留学生も数名いる。さらに日本人学生の中にも、実は父親や母親が中国にルーツを持つ学生が毎年何人かいることがわかり、おそらく今後も増えていくことは間違いないと思われる。留学生が卒業後も日本にとどまり家庭を持ち子供を持つことも多くなり、中国人留学生だった親（両親、あるいは父親か母親）を持つ日本生まれの子供は多くなることが予想されるためである。

毎年、初回授業に書いてもらっている本授業の履修目的も一部の単位取得履修目的である学生を除けば、留学生も中国にルーツを持つ学生も、日本人学生も含めて履修目的のほとんどは「自分が知らない中国のことを知りたい」である。

中国は面積、人口ともに大きな国である。中国人であるから、中国にルーツを持つから中国文化に詳しいわけではないのは、日本人だからといって必ずしも皆が日本文化に詳しいわけではないのと同じである。

3.4 興味の移り変わり

そう考えてみると「第7章 外来語とブランド」は、日本国内でも中国語表記を併記した飲食店のメニューもよく見かけるようになり、ドラッグストアの商品表示にも中国語が混じり、空港やデパートの免税品販売所などで中国語表記を目にすることも多い。また様々な商品の取り扱い説明書も中国語が併記されるようになってきた。中国語学習者ならウェブ上で中国語表記を検索して楽しんでいるかもしれない。以前は「知らなかったこと」も今では「知っていること」なのである。第9位「オリンピックと万国博覧会」は「新しく知った」こととして、大阪万博や東京オリンピック開催が開催都市のインフラが整備されたことやマナー向上の取り組みがなされたことが多く挙げられた。コメントには北京オリンピックや上海万博などについて、規模の大きさや会場建設の工期について沢山書かれていたが「勉強になった、役に立った」とは捉えていない。「第11章 消えゆく古き良き街並み」も20世紀から21世紀初めにかけて、中国の伝統住宅が壊され高層ビル、高層マンションへと変わっていく一方で、伝統住宅を保存しようとする動きが生まれてきたことを、日本の古い住宅の保存やリノベーションなど動きなどと合わせて紹介したが、「そういった取り組みを初めて知った」とは書かれていても、「勉強になった、役に立った」とは思っていないようである。「第12章 伝統の味とファストフード」については、開講してしばらくはコメントがとても多く人気の高い章であった。当初は「北京の食べ物」を中心に、北京ダックや庶民が食べ

る屋台の食べ物から中国各地方の料理、徐々に入ってきた各国のファストフードや日本食など、写真や映像を使用した授業を展開し、学生からは毎回「楽しかった」「あんなものを食べていとは思わなかった」などとコメントがあったものであった。ところが今回アンケートでは「役にたった、勉強になった」は数えるほどである。これも開講時と比べ、私たちの周囲の異文化環境、特に食における異文化環境が大きく変化したことと関係が深いのだろう。興味の対象も時代とともにまた変化していく。

4. 結び―「知りたいこと」の変化

この20年間で来日留学生は約5.5倍に増えた。留学生は中国をはじめ、ベトナム、ネパール、韓国、台湾とアジアからの留学生が多いため、外見からはそうとは気が付かないうちに私たちは多くの外国人と接しているかもしれない、異文化との接触の機会は思っている以上に多いだろう。周りに中国人が増え、外国人が増え、学校で、町で、駅や乗り物の中、アルバイト先で日本人以外と接する機会は爆発的に増えている。中国に関する情報もテレビや新聞、本だけでなくネット上でどんどん入ってくる。また気になる情報は検索をかければネットで簡単に得られるようになってきた。もはや日本人が20年前では知らなかった中国文化も既知のこととなり「あ、それ知っている！」ということも多いはずだ。身近に中国人がいる環境がもはや特別なことではなければ、かれらの生活習慣を直接見聞きすることもあり一緒におしゃべりしたり、勉強したり、食事をしたりしながら中国の習慣や文化を吸収しているだろう。気がつけば中国でしか食べられなかった料理も日本で食べられるようになり、中国でしか入手できなかった調味料や食材、たとえば“香菜”（パクチー）などの中国野菜もちょっとしたスーパーなら買えるよう

になった。中華街までいなくても池袋やアメ横には中国食品専門店がいくつもできている。もちろん中国人が経営する安価で食べられる中国料理店もたくさんでき、地方色豊かな料理を提供する店もある。中国だけではなく、ベトナム料理しかり、韓国料理しかり、すでに食に関して日本人は確かに異文化と出会い、既知の文化として吸収している部分が多くなってきている。ことほど左様に知らなかったことが「知っていること」に変われば、学生の興味の対象も変化するはずで、今後「知りたい」と思う異文化が新しく出てくるはずである。それを楽しみに授業を組み立てていきたい。

【参考文献】

保坂律子「中国語学習目的・意欲の変化に関する調査研究」駒沢女子大学『研究紀要』2003, 第10号 pp.257 - pp.268

保坂律子「日中異文化理解教育の試み」駒沢女子大学『研究紀要』2016, 第23号 pp.97 - pp.106

保坂律子「留学生と学ぶ異文化理解」駒沢女子大学『研究紀要』2017, 第24号 pp.165 - pp.178

【注】

(1) 平成16年度から「異文化との出会い(中国)」、平成27年度から新カリキュラムとなり「中国文化紀行」と変更。

(2) コメントシート：大学のB5の小レポート用紙を利用。罫線はあるが文字数の条件は付けていない。保坂2016、保坂2017ではコメントや感想を書く「感想票」と記したが、感想以外に質問や意見等も書かれており「コメントシート」とするのがふさわしい。今回から表記を改めた。

(3) 令和元年4月から7月

(4) アンケート形式の質問、強制ではないが授業内容改善のために協力してほしいと口頭で説明。アンケートは次のようなもの。

「中国文化紀行・異文化との出会い(中国)」では以下の内容を扱いました。

①それぞれの章で初めて知ったことを具体的に書いてください。
②特に勉強になった、役に立ったと思う章の口をチェックを入れてください。

□第1章 国家のシンボル
□第2章 風土と地理
□第3章 多民族国家
□第4章 中国の足
□第5章 教育制度と学生生活
□第6章 色のイメージ
□第7章 外食とブランド
□第8章 人気の本、アニメとなつた子供ものの遊び
□第9章 オリンピックと万国博覧会
□第10章 京劇
□第11章 消え行く古きよき街並み
□第12章 伝統の味とファストフード
□第13章 中国トイレ事情

(5) いくつでも、複数チェック可。

(6) コメント用紙半分以上の記述が履修者全体の半数以上。

(7) 勉強になった、役に立った。

(8) 外国人留学生在籍状況調査結果（平成16年度以降は独立行政法人日本学生支援機構実施、平成15年度以前は文部科学省実施）に基づきグラフを作成。

(9) 平成11年度外国人留学生在籍状況調査結果（文部科学省実施）に基づきグラフを作成。

(10) 平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果（独立行政法人日本学生支援機構実施）に基づきグラフを作成。

